

## 埼玉県腸管出血性大腸菌検出状況（2014）

埼玉県で 2014 年に分離され衛生研究所で確認された三類感染症である腸管出血性大腸菌は 219 株と昨年の 144 株より増加しました。県内分離株の内訳を表に示しました。最も多く検出された血清型は例年通り O157:H7 で 182 株 (83.1%)、次いで O26:H11 が 12 株 (5.5%) でした。また、分離株のうち 57 株 (26.0%) は患者発生に伴う家族検便や給食従事者に対する定期検便で非発症者から検出されたものでした。

分離された腸管出血性大腸菌の血清型・毒素型別検出数（2014）

血清型	毒素型	検出数	血清型	毒素型	検出数
O157:H7	VT1&2	158	O91:HUT	VT1	1
O157:H7	VT2	24	O103:H2	VT1	2
O157:H-	VT1&2	8	O111:H-	VT1&2	1
O157:H-	VT2	3	O121:H19	VT2	2
O26:H11	VT1	12	O145:H-	VT2f	1
O26:H-	VT1	2	O163:H5	VT2	2
O5:H-	VT1	1	O168:H8	VT2	1
O8:H-	VT2	1	合計		219

最も多く検出された O157:H7 のうち毒素型 VT1,VT2 が 158 株で、検出株全体の 72.1%を占めました。この O157:H7 VT1,VT2 には、7 月下旬に県西部の保育園での集団感染が含まれています。この事例では、園児 44 名、家族 10 名、職員 8 名の計 62 名から菌が検出されました。

この集団感染事例以外にも、O157:H7 VT1,VT2 では PFGE 型で集積が見られた散発事例もあり、今後ともその動向を注意して監視していく必要があります。